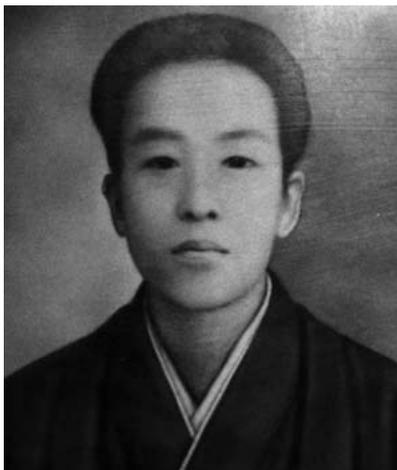


う つのみや のぶちか  
宇都宮 誠集 (1855~1907)



**夏柑栽培先覚者。**宇和郡三崎浦松(現、伊方町)出身。大阪で学んだ後、32歳で郷里の郵便局長になり、業務の一環で貯金を勧めるため村内を回ってみたところ、農家がとても貧しいことに気付いた。

誠集は、村民の安定した収入を目指して鉱山発掘や漁業の振興を試みたが失敗し、やはり確実なのは農業だと考えて日本各地を研究のため訪れ、旅先の兵庫県加古川で夏柑と出会った。早速、大阪近郊や山口県の萩から夏柑の苗木100本を購入し、自分の農園で栽培したところ、7、8年で立派な実がなった。日当たりと水はけが良く、暖かい気候の三崎は夏柑の栽培に適していると確信した誠集は、村民に栽培するよう説いて回り、郷土が豊かになるためにと訴えた誠集の情熱は、若い農家の心を動かし、若者たちが試作を始めた。その後は年を追って村内

一円に、さらに佐田岬半島全域に夏柑の栽培が広がった。

毎年2月、伊方町三崎の農協が主催して、誠集の「慰霊祭」が盛大に行われており、誠集は「夏柑の父」として多くの町民から感謝されている。

## 略歴

安政2(1855)年5月8日	宇和郡三崎浦松に生まれる。
明治13(1880)年	三崎郵便局の局長心得
明治19(1886)年	県下最年少の三崎郵便局長就任
明治23(1890)年	兵庫県加古川で夏柑を見て、大阪近郊や萩から夏柑の苗を取り寄せ、試植
明治28(1895)年	村民の一部が芋畑をつぶして夏柑植樹
明治38(1905)年	郵便局を退職
明治40(1907)年5月4日	53歳で永眠
明治43(1910)年	知事より果樹栽培功労者として追賞を受ける。

(写真提供：伊方町教育委員会)

### 〈関連図書〉

- ・三崎町誌編集委員会『三崎町誌』三崎町 1985年
- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・『発掘えひめ人－近代を拓いた101人－』愛媛新聞社 2002年

〈ゆかりのある場所〉…(P282, 73)